

第五章

熊本機能病院誕生

のピット

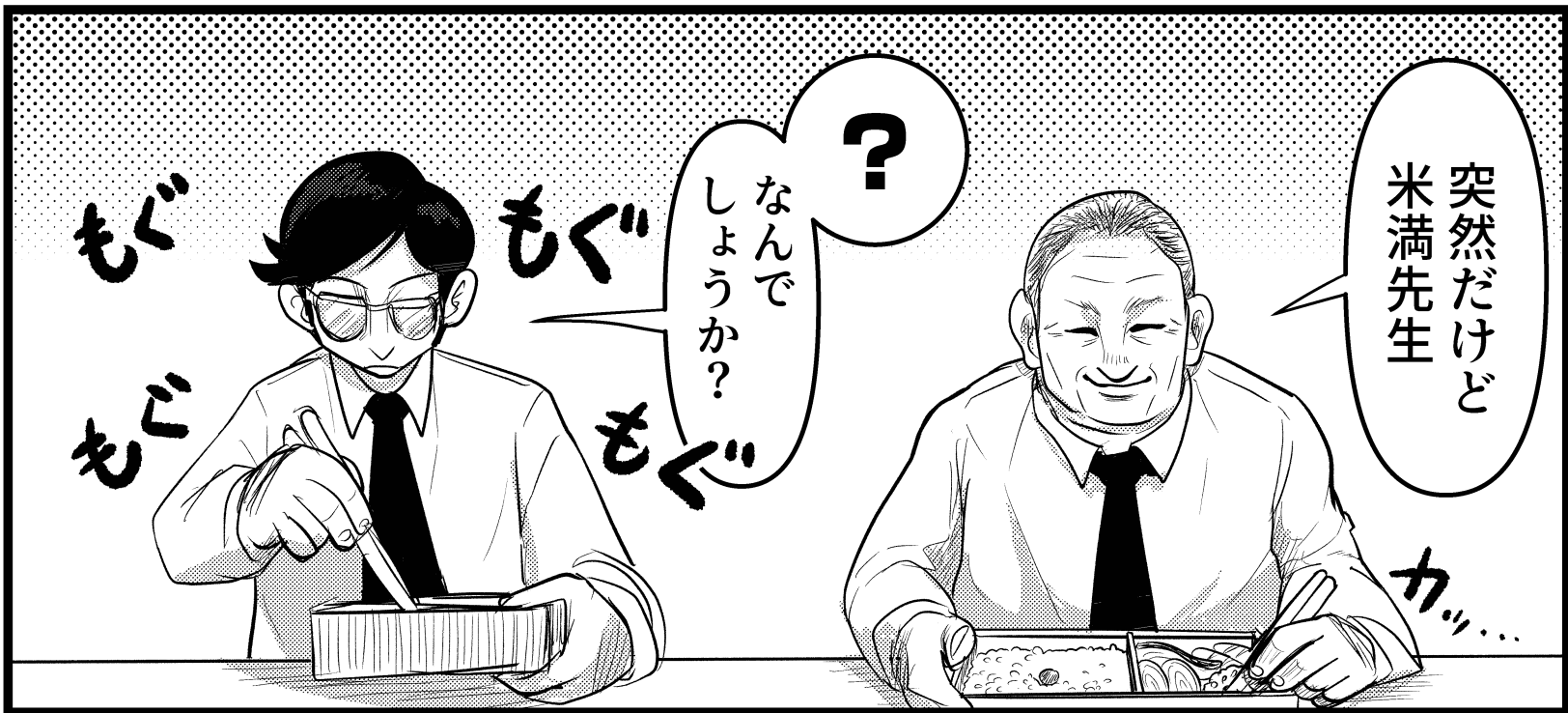




神戸大学での生活も
慣れ始めたある日の
昼食時間—



澤村先生の下で
様々な経験・知識・技術
を身につけていく弘之…



突然だけど
米満先生

?
なんで
しょうか?

もぐ
もぐ
もぐ



じ…
10億円ですか…!?!*

額が大きすぎて
ちよっと考えられませんか



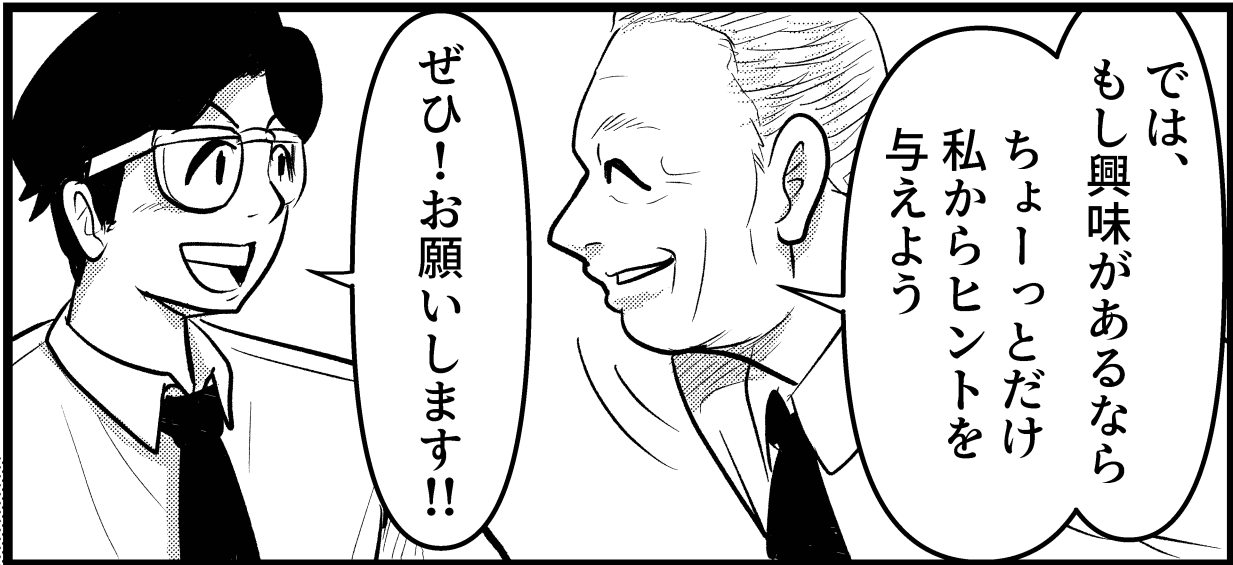
もし、今、
10億円があったら…
君なら何がしたい?

*今だと数千億円



自分の病院をつくるね！

私だったら迷わず…



当時、病院開業は検討していなかった弘之。



弘之はほんのわずかの時間でしたが、澤村先生に開業までの流れや、人材の確保、そして資金調達など、様々なノウハウを伝授してもらいました。

このときの教えが後の熊本機能病院誕生に役立つのは、まだ先の話…

熊本に帰るとー

お!

米満先生長い期間
お疲れ様!

随分と遅しく
なったな!

見た目だけでは無い...
何かつかんで
来たようだね。

はい...!

顔を見れば
分かるよ。

私はこの数カ月間、澤村先生の
下で多くの手術、そして義手・
義足の製作にかかわってきました。

でも、中には治療がうまく
いけば手足を切断せずに
済んだのではないかと...
そう悔いが残る患者さんも
いました。

.....

補完する義手・義足も
もちろん大事ですが、

それ以前に災害事故で大怪我を
しても、最終的に手足を残して
使えるようにする...

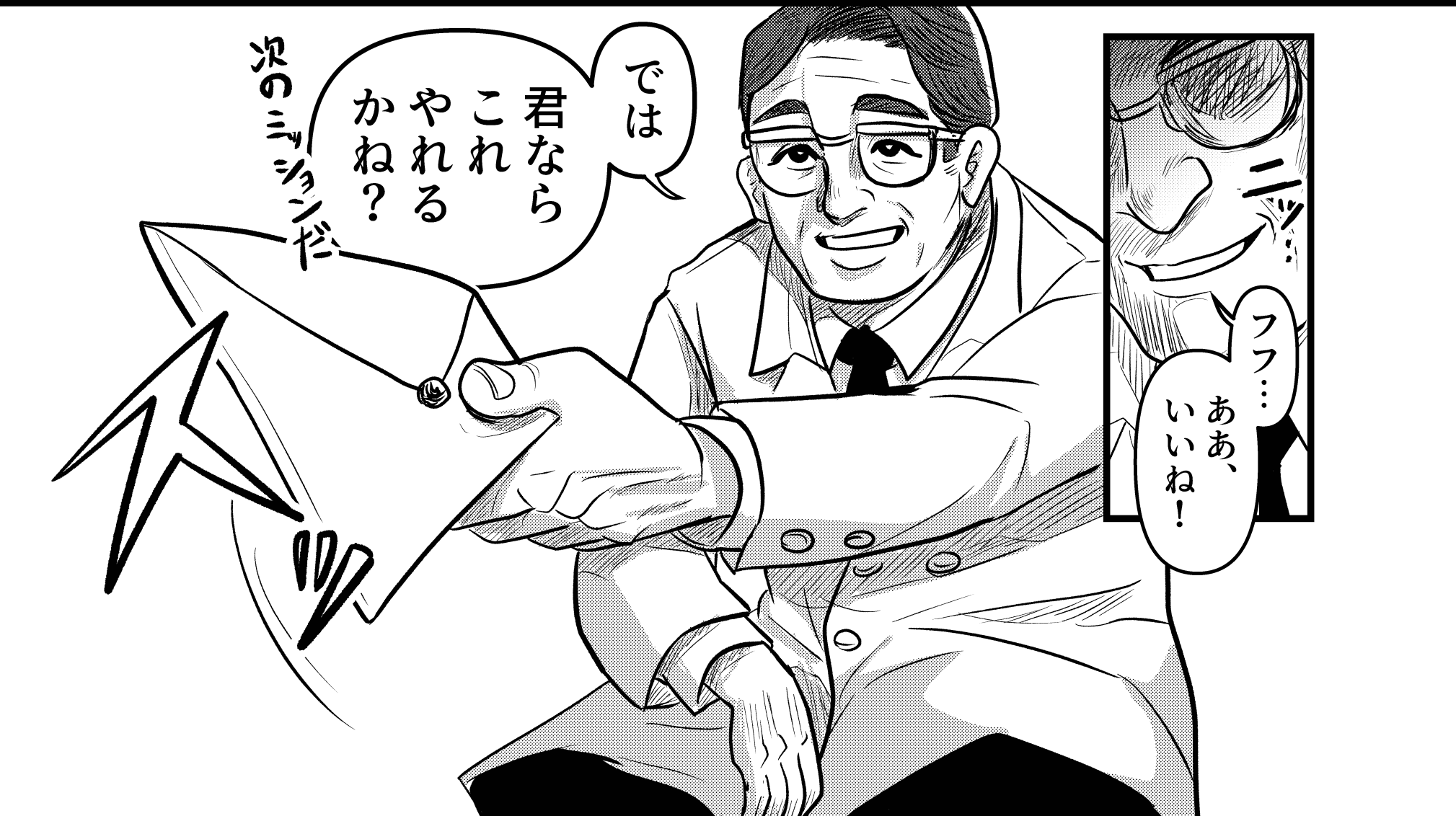
整形外科医としてリハビリより
先ずこのことから極めるべき
だと気づいたんです。

だから
玉井先生

私は...

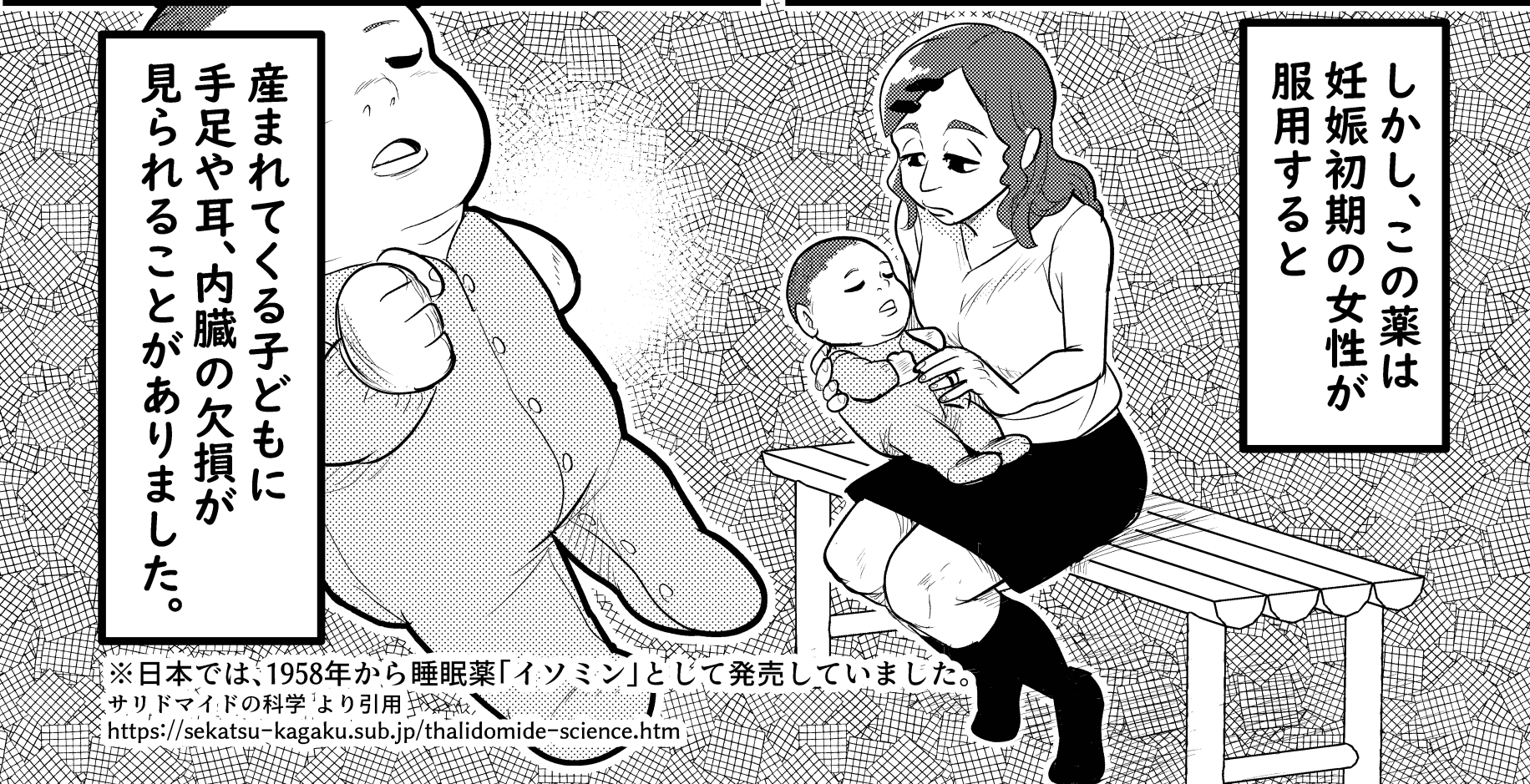


切れた手足を
再接着でできる医者にな
りたいのです!!



では
君なら
これ
やれる
かね?
次のミッションだ

フフ…
ああ、
いいね!



サリドマイドの影響で
手足を失った子どもは
「サリドマイド児」と呼ばれ



弘之は、玉井教授の期待に
応えるべく、兵庫リハで
得た知識をこの子どもたち
へ…という想いで研究に
明け暮れていました。

今日は問題
なし…と



しかし、この研究は
弘之一人では限界
があったといえます。



それでも決して
諦めない弘之は

よし



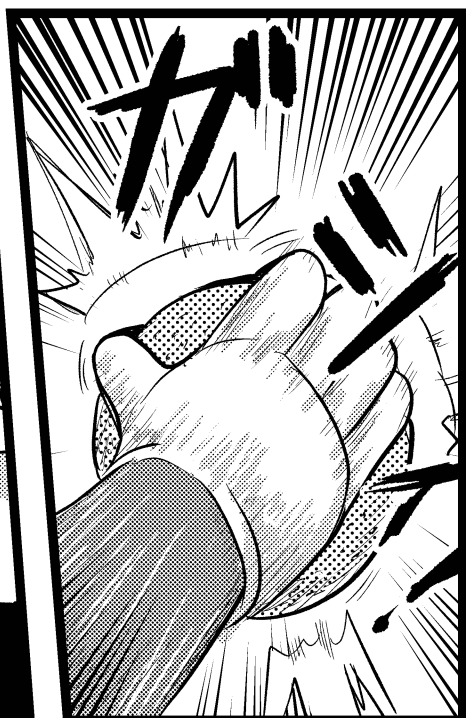
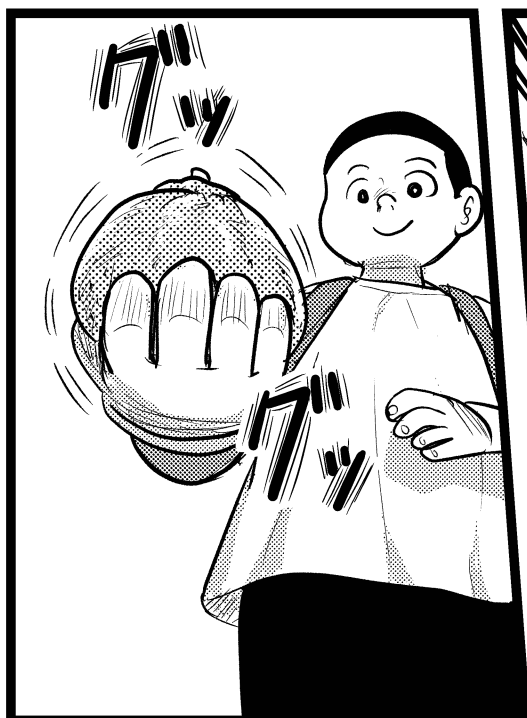
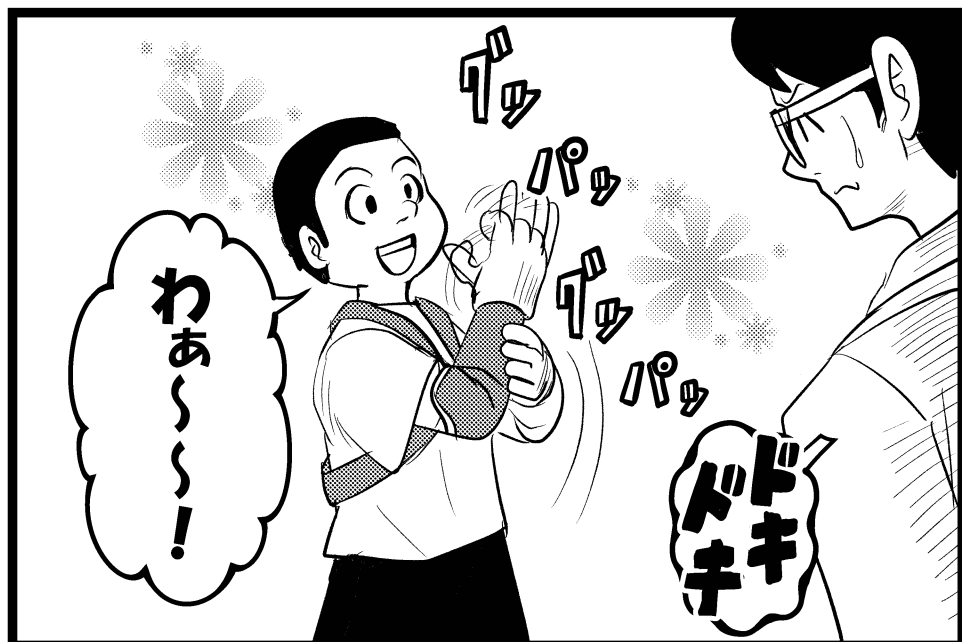
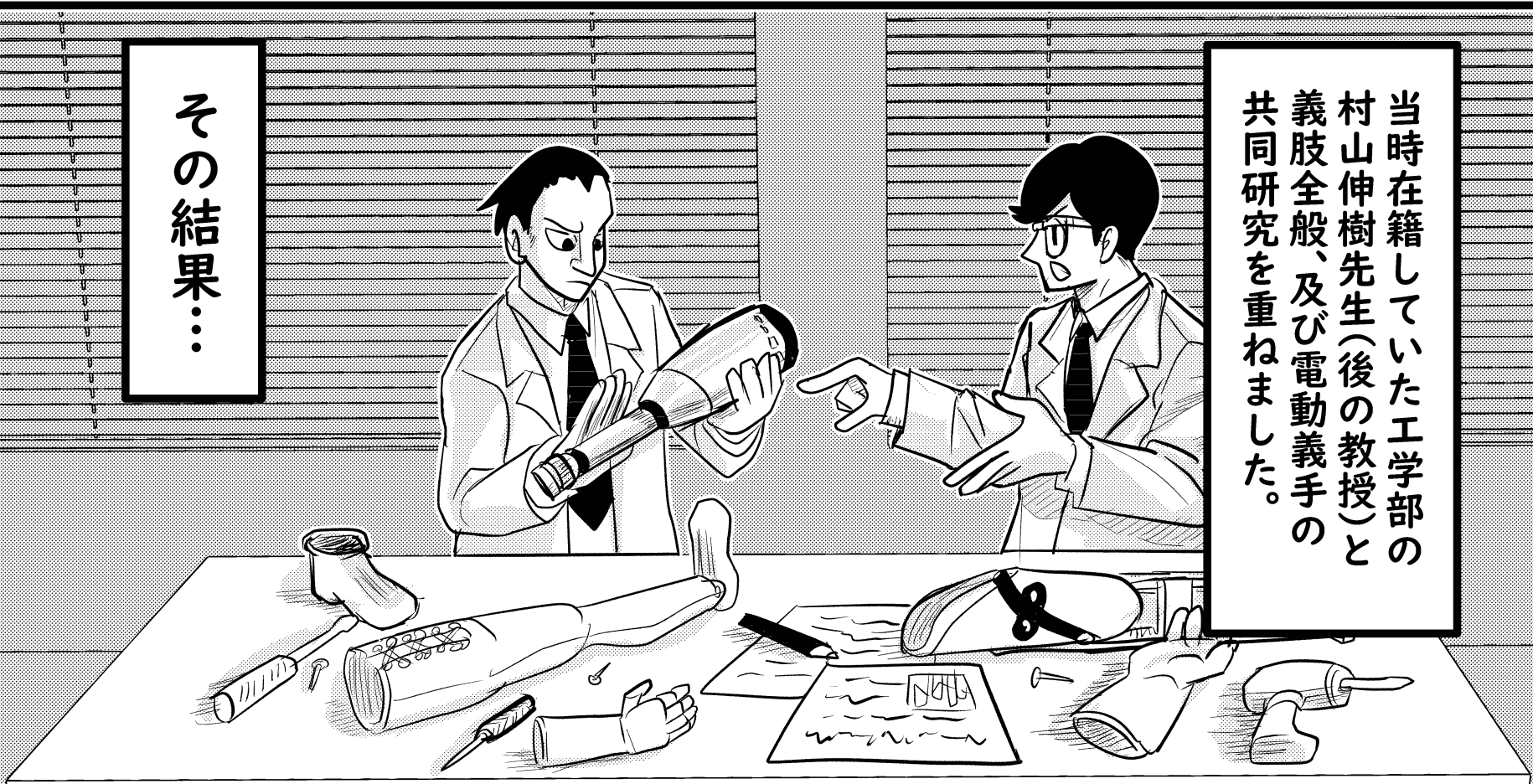
この研究は医学の殻に
閉じこもったままでは
いけない！

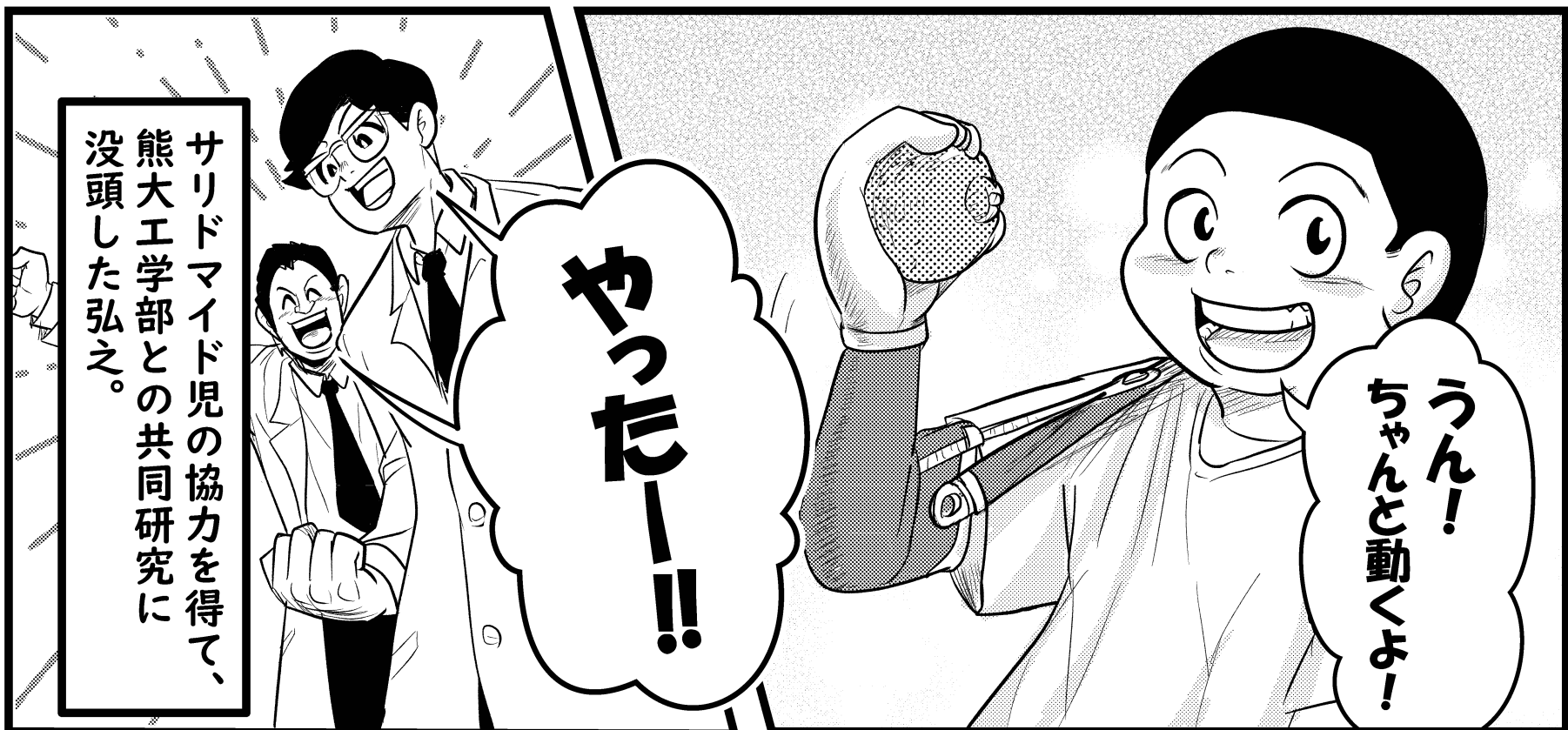
と、すぐに
“熊本大学工学部”
に連絡を取り



その結果…

当時在籍していた工学部の
村山伸樹先生(後の教授)と
義肢全般、及び電動義手の
共同研究を重ねました。





ある日ー

玉井先生ー!!

ガラッ!

ど、どうしたんだね?
米満先生!?

そんな輝いた顔で来ると
いうことは……?

奈良県立医大の先生が
世界で初めて切断指を
繋いだそうなんです!

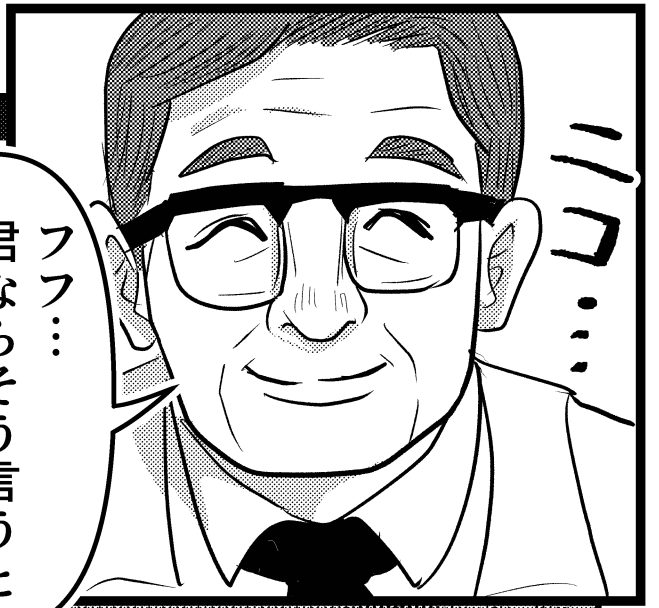
これは世界的な
ビッグニュースですよ!!

世界初の手術に成功

ポニ

ぜひ!奈良県立医大の
先生の元へ私を紹介
していただけませんか!?

うん…



ニコ...

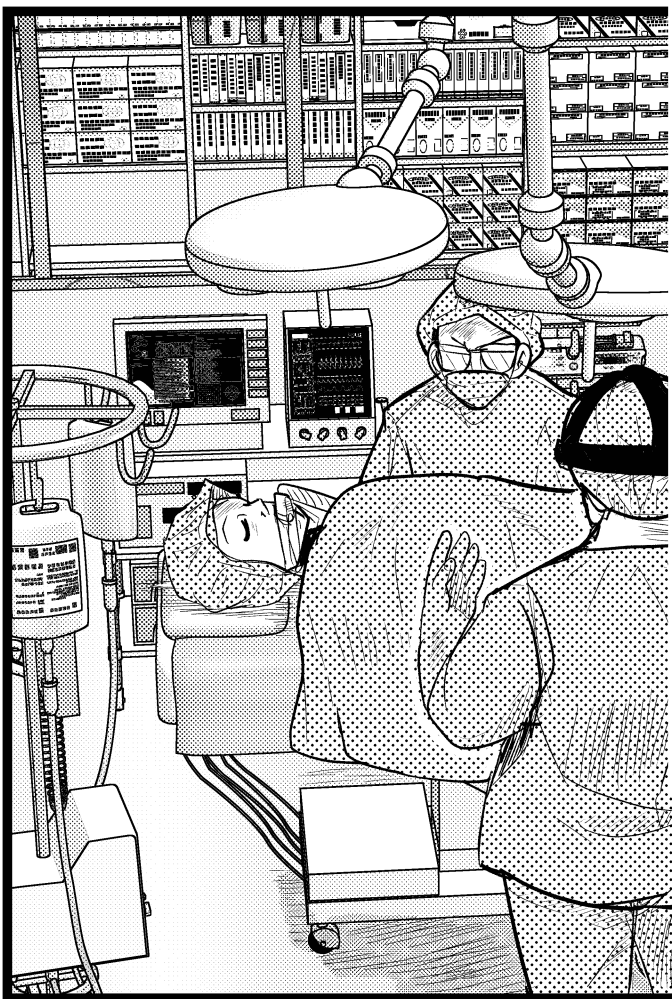
フフ：
君ならそう言うと思っ
ったよ！

わかった！
行っておいで！

ありがとう
ございます！



奈良県立医科大学



技術を学び、熊本に戻ってき
てからは大学病院で特別に許
可をもらい「切断肢再接着
手術」の執刀にあたり、多
くの人の手足を繋いでいき
ました。

玉井進先生



すぐに奈良県へと飛んだ弘
之。そこで再接着技術を実
用化させた玉井進先生と
出会い、Microsurgery
の世界に没頭しました。

この活躍は医療界で
大きな話題になり、

弘之の名は全国的にも
知られるようになって
きました。

医療界の新星

熊本の医療界の新星

そして「あるオファー」が
弘之の元に届きます。

米満先生

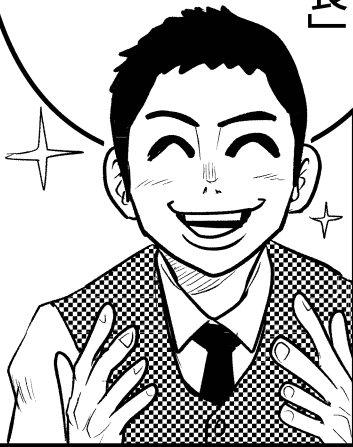
日赤病院の方が
いらっしやっています。



外傷センター……？

はい、熊本赤十字病院の
中に「外傷センター」を
つくることになりました……

その「整形外科部長」
として切断肢再接着
手術で実績のある
米満先生に
来ていただきたい
のです！



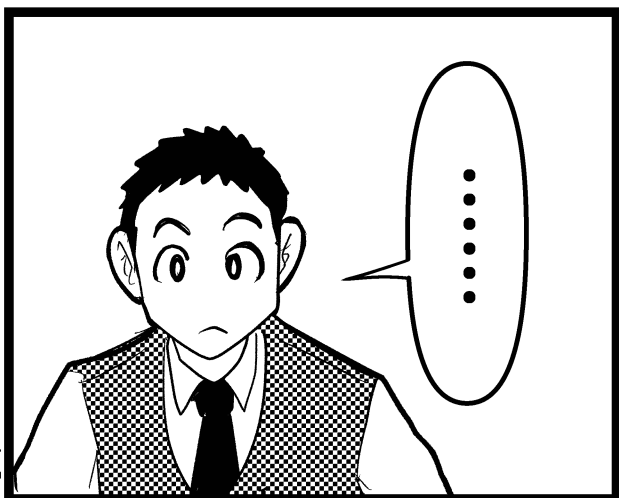
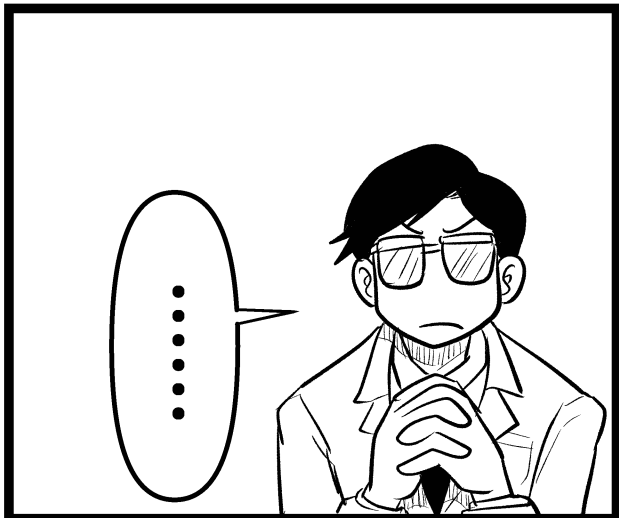
わかりました
引き受けましょう。

おお！
ありがとうございます！

確認なのですが
外傷センターと同時に
「リハビリテーション科」
の部署も作られる予定
ですよ？

はい、そうですが……
何かありますか??



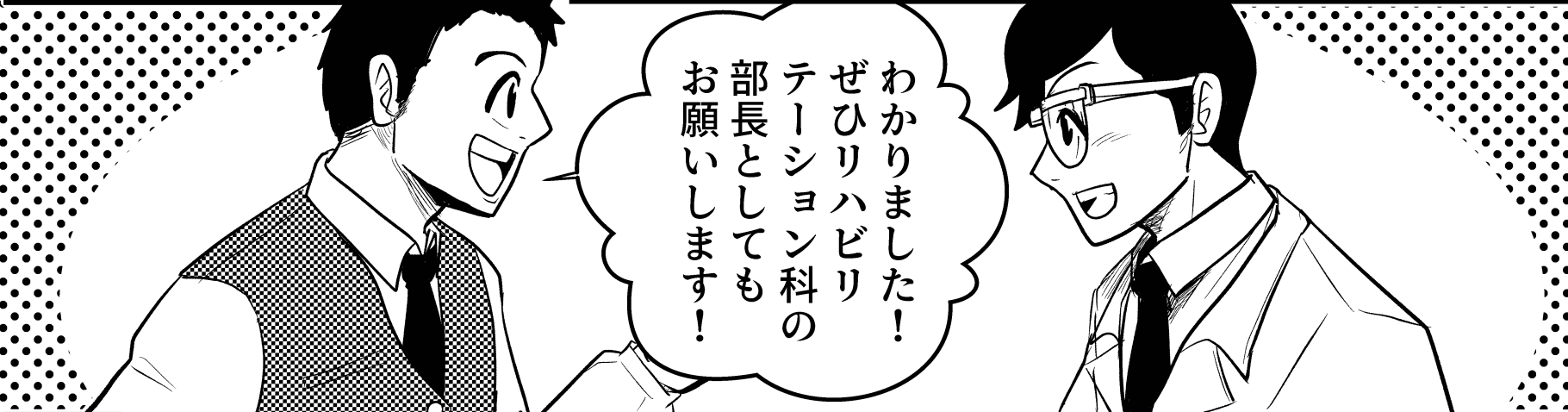


私はリハビリと整形外科は切り離せない関係だと考えています。

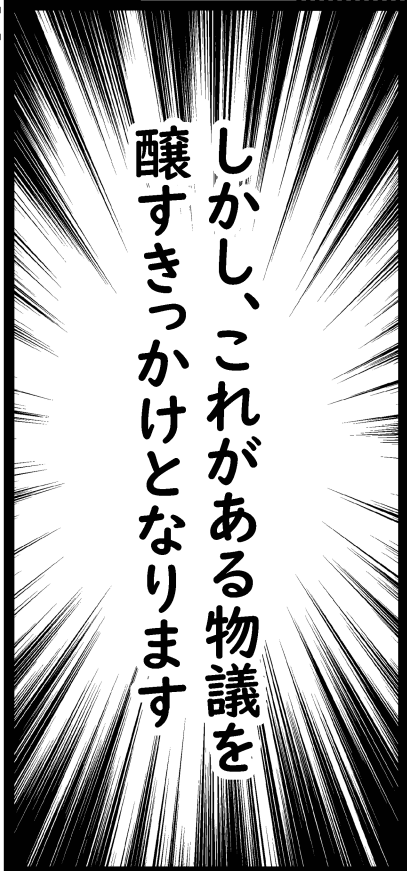
この2つを両立させてより良い治療を患者さんに受けてもらいたい。

そこで

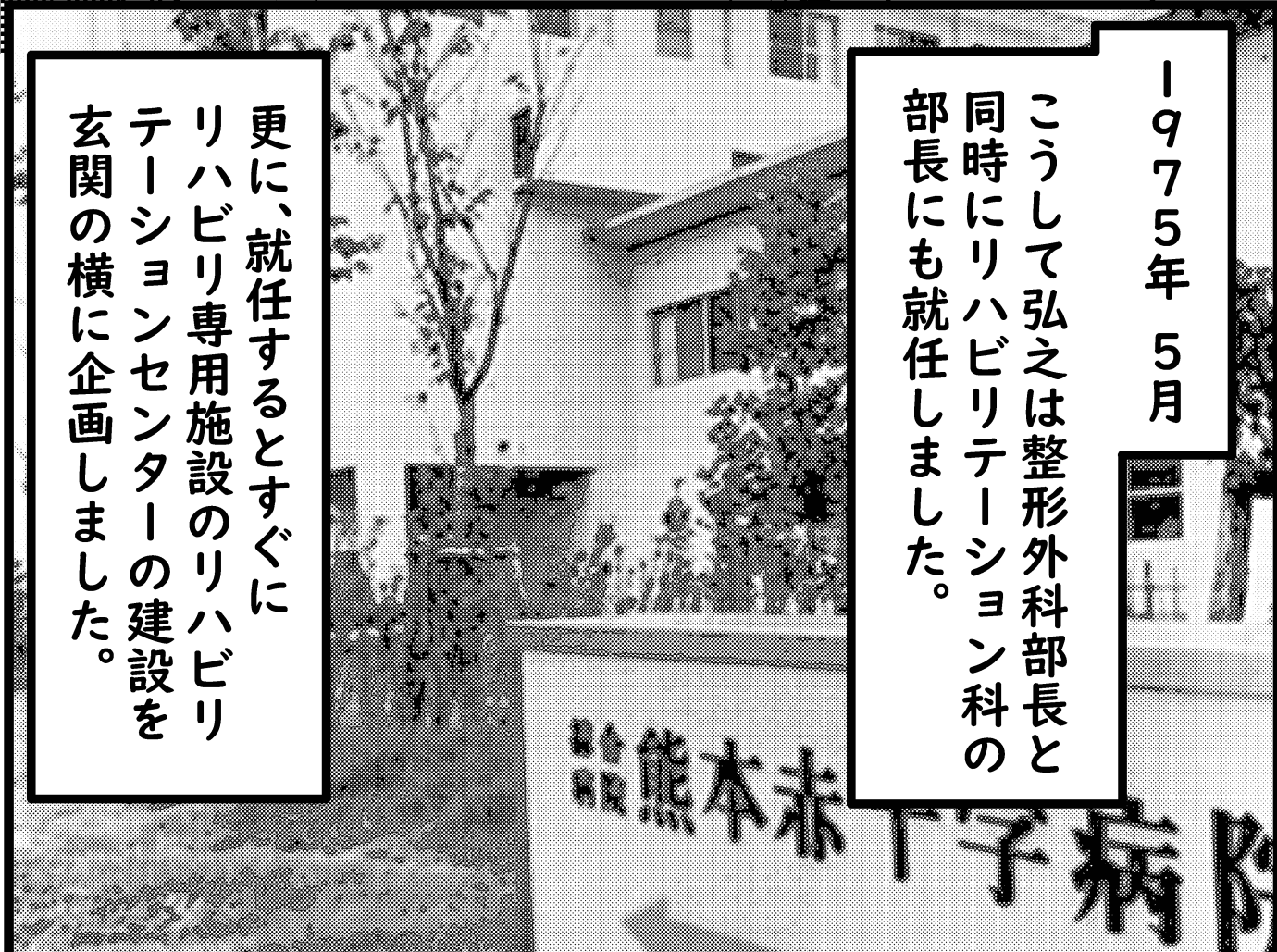
私をリハビリテーション科の部長にもしていただけないか？



わかりました！
ぜひリハビリ
テーション科の
部長としても
お願いします！



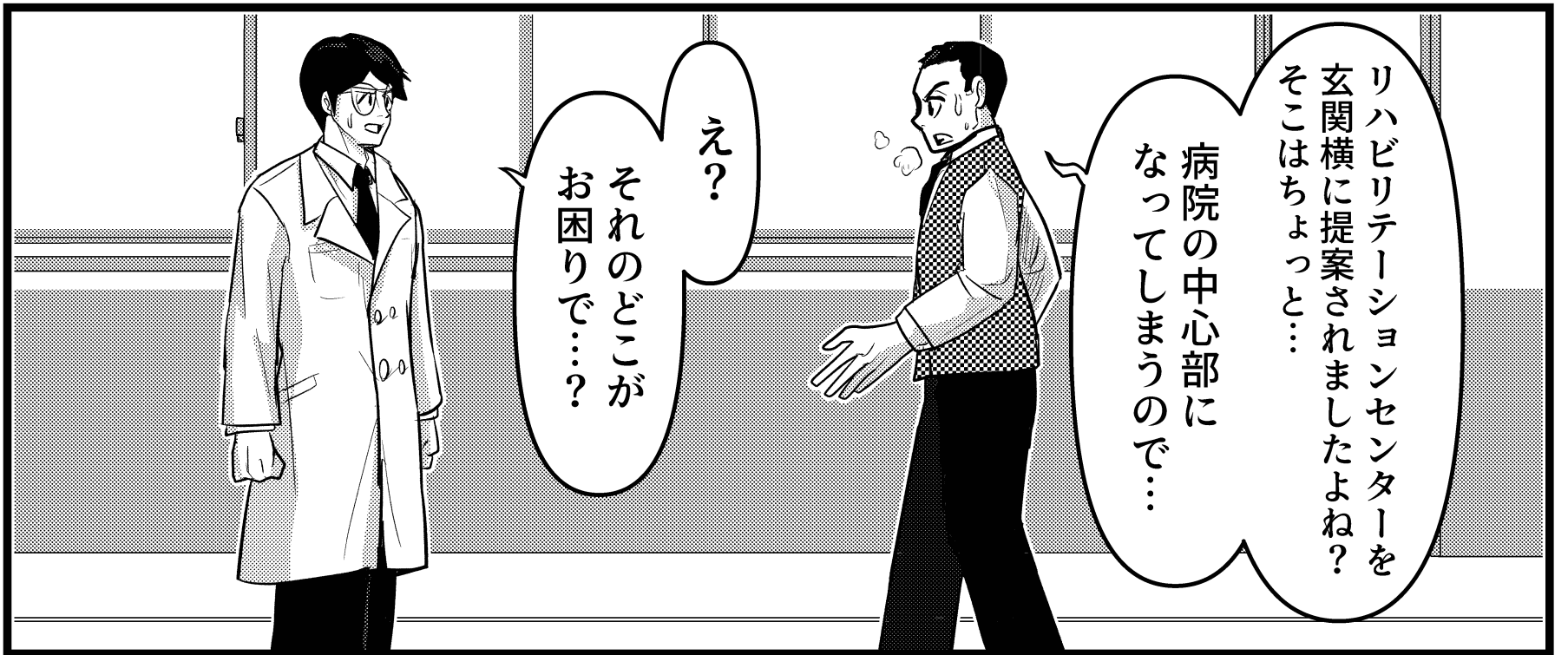
しかし、これがある物議を醸すきっかけとなります



1975年 5月

こうして弘之は整形外科部長と同時にリハビリテーション科の部長にも就任しました。

更に、就任するとすぐにリハビリ専用施設のリハビリテーションセンターの建設を玄関の横に企画しました。



当時リハビリは世間にも浸透してきて
いましたが、重要性の意識はまだ低く、
殆どの病院がリハビリテーション
センターを離れた場所に建てて
いました。





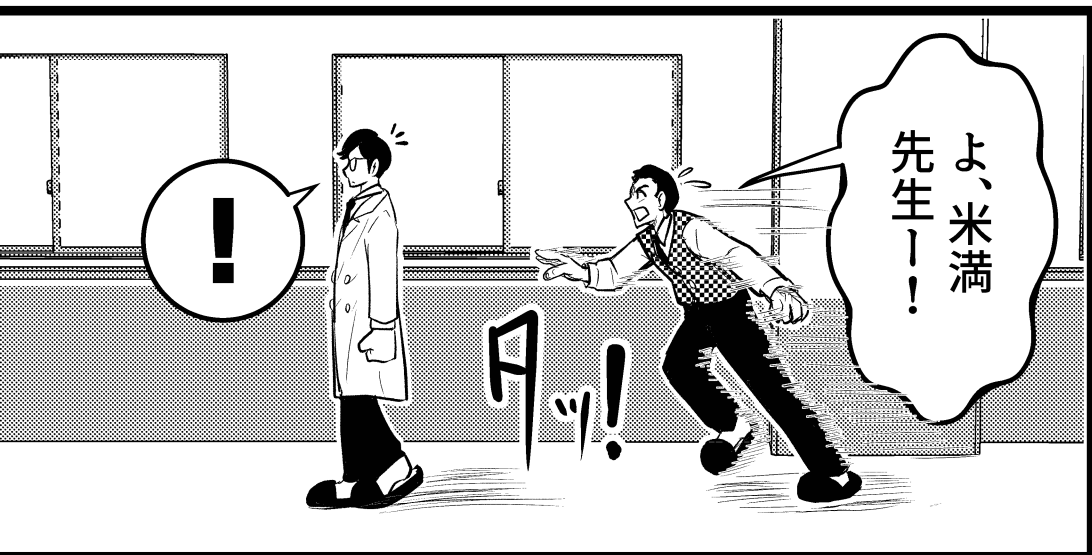
このままでは
いけない……!

澤村先生も
言われていた……

「リハビリテーション
には救急医療が
なきやダメなんだ!!」



後日



よ、米満
先生……!



今大丈夫
ですか??

またリハビリテーション
センターの話ですか?



リハビリテーション
センターの件……

病院の正面玄関横に
つくっても問題
ありません……!



本当ですか??!

ど、どうやら今回の話は
県知事の耳にも届いて
いたみたいでして……!

!?

熊本県知事(当時)

沢田一精

何ですって!?

病院の中に
リハビリテーション
センターをつくる!?

…とても素晴らしい
ことじゃないですか!
県としても応援しましょう!

と、いうことで
許可がおりた
んです!

やった!
やった!

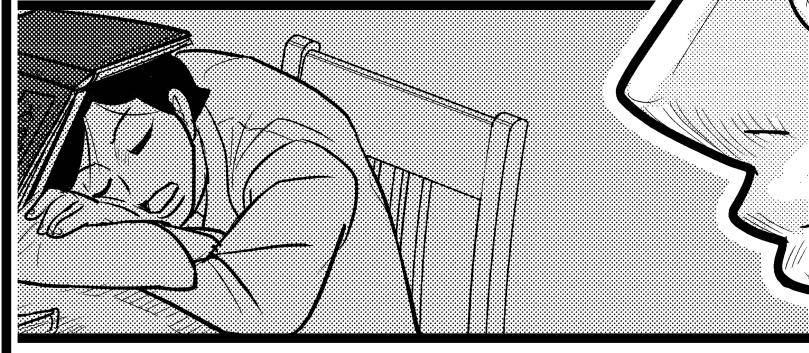
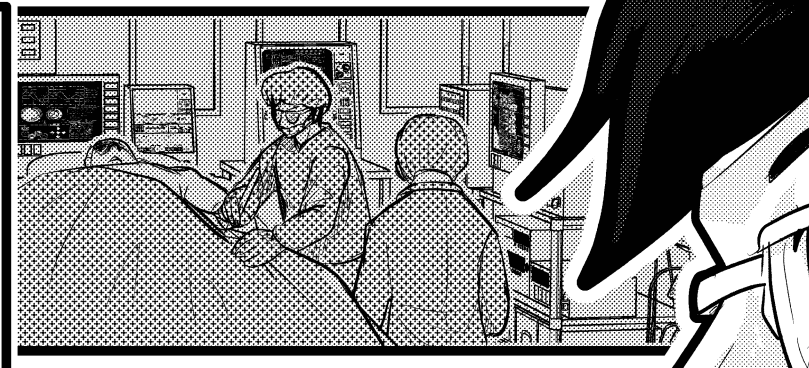
よかった……!

よーし!これで
再接着手術も!
リハビリも!
義肢の研究も!
全てできるぞー!

リハビリテーションセンター
を無事設立し、
かたや切断四肢(指)再接着センター
を開設した弘之。

そして日赤で、診察や手術だけで
なく、研究も同時にこなす
大忙しの毎日がまた始まるのです……!

1975年から1981年までの6年間、毎日毎日
救急医療、それも四肢外傷の治療に明け暮れた。
その間行った再接着の症例は250症例に達する。





作者

ノゾエ タカフミ
NOZOETAKAFUMI

熊本県を中心に活動する
漫画家・イラストレーター。

魅力ある歴史を伝える「漫画」や
親しみやすい「キャラクター」
など：幅広い分野で制作活動を
行っております。

子どもが2024年1月に
生まれ、パパとしても現在
活躍中。



【ノゾエ タカフミwebサイト】

<https://www.nozotown.com/>